

瓦谷山



瓦谷山だより



表紙写真： シャンティ
国際ボランティア会の支
援によりヌワコット地区
に建設中のシャンティ・
デビ小学校の児童

発行日 2017年6月15日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.35

ごあいさつ

冬の木の伐採からたちまちに春も過ぎ、草刈りの季節を迎えました。初めこそ勇んで草を刈りますが、だんだん疲れてきて苦行へと変わり、夏を迎えるころにはヘトヘト、お盆を前にもうひと頑張り、秋が来てホツとする。毎年繰り返される当山の営みです。そうした中でも植木の剪定、田んぼの作業、散策道造成工事と、相変わらず働きまくる真光寺です。

境内整備がまだ道半ばであるにもかかわらず、私はこの四月、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の専務理事に就任してしまいました。シャンティ国際ボランティア会は、タイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー、ミャンマー難民事務所、ネパール、アフガニスタンのアジア七ヶ所の現地拠点に日本人職員を派遣し、現地の職員を採用して、小学校の建設、絵本を送る運動、現地での絵本製作、教員養成、図書館の建設や運営支援、災害地への緊急救援活動などを行っています。

「シャンティ」とはインドの言葉で、「慈悲」とか「平和」という意味です。平和な人の営みを実現するには、子どもに教育の機会を平等に提供し、情報を敏感にとらえて自ら考える人材を育てていく他に道はないという信念の下、活動を展開しています。もとは「曹洞宗国際ボランティア会」といい、インドシナ難民問題が発生したときに、「遠い国からお金の支援をするだけでよいのか」という自問から曹洞宗の僧侶有志が設立し、当初は僧侶がタイの難民キャンプに常駐して支援を行いました。名称は変わりましたが、現在でも理事の半数は曹洞宗僧侶が占めていますし、予算の三分の一は曹洞宗寺院および曹洞宗檀信徒の皆様からの募金で成り立っています。しかし現在、現場で働く職員百六十人のうち、僧侶はわずか二名しかない状況で、募金していただく皆様との関係が薄くなりつつあ

り、会の基盤が揺らいでいます。そこでなるべく常勤の役員に僧侶を配置しようということで、かねてより理事をつとめていた私が専務理事の任に就くこととなってしまったのです。

対象となる国の多くは順調に経済成長を遂げつつあるように見えますが、農村や山間部の人々は発展から取り残され、都市部においても相変わらず新しいスラム地区が形成されています。貧困に喘ぎ学校に行けない子どももまだ多く、人身売買や売春、ドラッグの問題も深刻です。本紙で既報のように、ミャンマーでは内戦が続き、今でも戦災孤児が発生しています。二年前大地震に見舞われたネパールでは、民主化したばかりの政府が機能せず、復興への道は未だ険しいものがあります。

「やらねばならないことがたくさんある現場にやれる団体が存在し、そのご縁をいただける立場にあるのなら、微力でも力を尽くしたい、関係性の中で命を説く仏教思想を基盤とする私が逃げるわけにはいかない」との思いから、無謀にも要請を受けることといたしました。本紙にご紹介かたがたシャンティ国際ボランティア会入会のご案内を同封しております。会のホームページなどをご参照の上、ご賛同いただける方はぜひご協力をお願い致します。また本会の活動にご興味をお持ちの個人あるいは企業をご存じでしたら、ぜひご紹介ください。

そのようなことで寺を空ける日も多くなり、七月と秋には二週間程度、現地事務所の視察に出ます。お盆からお彼岸にかけての時期にも当たり、ご迷惑をおかけしてしまうかもしれません、皆様には何卒御諒解の上、より一層の御参詣を賜りたく、山内一同心よりお待ちしております。

合 掌

真光寺住職 岡本和幸

ご寄進者ご芳名

金 参拾 萬円 渡辺富貴子 様

渡辺裕吾 様

金 拾 萬円 渡辺創吾 様

苦米地芳枝 様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。
皆様からのご寄進は諸堂建立に充てさせて頂き、食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

行事報告

◇植樹祭（四月）

四月の七日法要の午後、年に一度の植樹祭を行いました。昨年に続き今年もお天気には恵まれませんでした。皆さん小雨の降る中カップを着て、ヤマブキ・クロモジ・コゴメウツギ・ハクサンボク・ガマズミ・ムラサキシキブ・ゴンズイなど、十一種類四十本を植えられました。そのほか、あじさいの会では参加者のご協力のもと約一千本のあじさいを植栽いたしました。花の溢れる真光寺に是非ご来山下さい。



雨の降る中植樹祭



紫陽花が開花し始めました(5/30)

◇花まつり法要と檀信徒総会

毎年四月の第一日曜日には檀信徒総会に併せ御詠歌を奉詠しお釈迦様の誕生をお祝いしております。総会の後には恒例のお花見BBQにて檀信徒一同懇親の一時となりました。



◇聖典講読の会

五月の聖典講読の会では、大本山永平寺の開山である道元禅師の示された『永平初祖学道用心集』の第七則、「仏法を修行して出離を欣求する人は須く参禅すべき事」を題材に解説いたしました。当時、仏法は經典によって学問的に学ぶことが一般的でした。しかし、それに対し実際に師匠について、その生き方に仏法を求めるべきと示されている則です。聖典講読の会では、お経や祖録についてわかりやすく解説しておりますので、是非一度ご参加してみたいかがですか。昼食の精進料理もご好評いただいております。

聖典講読の会 5月の献立

- ・白米（真光寺里山米）
- ・豆腐とナメコの味噌汁
- ・大豆肉と木綿豆腐のハンバーグ
- ・揚げ出し高野豆腐
- ・茄子と春雨の酢の物
- ・筍の煮物
- ・香物



『あじさいの会』参加者募集中

毎月一回開催しているあじさいの会。真光寺の境内全体の植栽管理に皆さまに参加していただいて、一緒に「花の寺」を作り、維持していくことを主旨としております。

この会で皆さまに手伝っていただく作業は、あじさいの苗を育て、畑に仮植え、そして実際に境内に植樹。また挿し木で次の年のための苗を育てます。ただし、これは季節ごとの仕事ですので、月によっては畑で野菜の手入れをしたり、庭の草取りをしたりと様々です。

広い真光寺の境内地は、墓苑あり、庭園あり、雑木林あり。植栽管理の仕事では、いつも課題が満載です。職員一同がんばっておりますが、なかなか目標には追いつきません。

是非とも、皆さまのご参加を得て、花いっぱいのお寺にしていきたいと思っております。どうぞ、ふるってご参加ください！ 定番となりましたお昼の精進カレーもご賞味ください。



畑に仮植えるため堆肥を撒いています。



花が終わると剪定します。

真光寺の桜

住職 岡本和幸

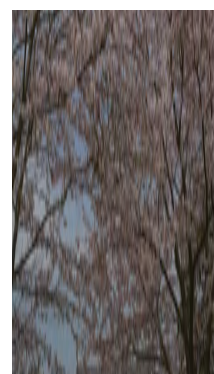
平成六年に私が真光寺に入った当時、花の咲く木は、山桜と金木犀、サツキぐらいしかありませんでした。真光寺に自生する山桜は白花ながら花弁中央に濃い朱が差すなかなか可憐な花で、おそらく大島桜の変異種ではないかと思っています。桜は五百種類以上の品種があるといわれ、変異しやすい樹種であることが知られています。真光寺に植えた桜だけでも「ソメイヨシノ」「ウコンザクラ」「アーコレイド」「関山」「ダルマザクラ」「冬桜」「十月桜」「普賢象」「鎌足桜」「菊枝垂れ」「エドヒガン枝垂れ」……と、非常に多岐にわたります。

これらは桜の品種名ですが、古来、山にある桜は「山桜」、そして桜の名所である吉野山の山桜は「吉野桜」と呼ばれてきました。吉野は修験道で知られる金峯山寺を中心としたエリアで、今から千三百年前、役行者が山桜の木に御本尊、蔵王権現を刻んだことから、桜はご神木とされ、以来この地で大切に守り育てられました。吉野山の桜の中心は「シロヤマザクラ」で、これは初めに赤い葉を出し、その後白い花が咲く系統の山桜です。西行法師の庵から天皇の



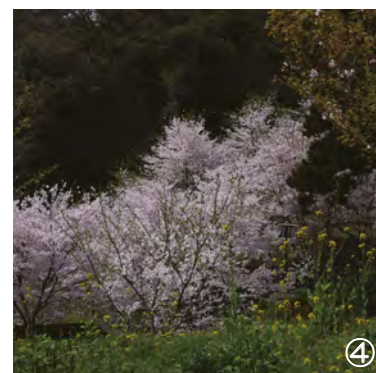
① 真光寺のどこにある桜かわかりますか？

行在所、秀吉の大花見会など、吉野山は歴史的にもあまりに有名なので、山中の桜を「吉野桜」と総称する場合もあります。では吉野山の「吉野桜」がみな同じ桜かといえそうですが、なく、長い年月をかけて地元の人たちが、山の中で特に良いと思われる桜の種を採取し、それを育ててはまた山に植えるという営みを続け、今の吉野山になったといわれます。実生で育つ山桜には一本も同じ桜がないと言っても過言ではなく、花期も少しずつずれ、葉の出方も一本一本違うのです。



③

水上勉の小説「櫻守」の中に描かれているように、昔はお金持ちが山を買い、桜を植え、専門の植木職人を雇い手入れをして、春の桜を楽しんだということがあったようです。吉野山も地元の人たちが手を入れ続けることにより、見事な景観を維持できているのだと思います。青森の弘前公園では、地元のボランティアがリンゴの剪定の手法を採り入れ、不要な枝を切ることでソメイヨシノの樹齢限界六十年を



④

超えることに成功し、素晴らしい桜の名所となつていきます。そのように桜は手のかかる木ですが、手間をかければ応えてくれる木でもあります。

山桜は人間にとつて実に有用な樹種で、花を愛でるのみならず、さまざまなに利用されてきました。薪としてだけではなく、燻製作りには桜チップが珍重されますし、皮は樺細工などの工芸品に、幹は赤い木肌を活かして家具や家の建築材として用いられます。ひこばえが出やすいので、伐った後も再生し、新しい幹を伸ばします。山桜は里山を代表する樹種の一つであると言つてよいでしょう。

真光寺の寺域の山の中に、昔から「馬車道」といわれてきた幅一メートルほどの山道があり、その沿道には等間隔で桜の木が植えられていますから、山の上まで桜の回廊ができていたはず。今は使われることもなくすっかり荒れてしまいましたが、昔の人にとっては里山は生活用材調達の間だけではなく、楽しむための場所でもあったのです。



⑤

今春、真光寺で

は「山桜」「大島桜」「エドヒガンザクラ」「大山桜」等、

いわゆる山桜の代表的な品種を植えました。山桜と称して販売されているのはたいてい吉野桜系の山桜と思われませんが、関東南岸に自生する山

桜は大島桜の系統が多く、伊豆大島には樹齢八百年以上の木があるそうです。潮風にも負けない生命力の強い桜として知られ、大きな花弁は白で香りがよく、真光寺の山桜も開花時には奥ゆかしい香りを放ちます。「エドヒガンザクラ」は寺の入り口の池側に植えられています。早生の品種で、葉に先がけてピンクの花が開きます。よく知られるように、前記の大島桜とエドヒガン桜をかけ合わせて生まれたのがソメイヨシノです。大山桜は別名蝦夷桜といわれるように北海道に多く、花の色から紅山桜ともいわれます。

昨年はソメイヨシノを二十本、今年は山桜系を五十本植えました。さまざまな樹種を混ぜながら山全体を彩っていききたいと思っています。目指すは吉野山です。

答え合わせ①桜の苑②山門前③森の苑第三期

④参道(車道急坂)⑤麓の駐車場⑥旧本堂裏山



◇そば打ちの会

椎野靖浩

昨年の新そばが出る頃、縁の会会員の西原口様よりそば打ち道具のご寄進を受け、そば打ちの会を開催しています。真光寺の新たな魅力作りのために、職員(椎野、町田)も取り組んでいます。素人そばうちの魅力は鮮度!良いそばを使いまし、石臼もご寄進していただいたので、最高の条件で挽きたてのそばを楽しむことができます。少し練習すれば美味しいそばが作れますよ。道具が4人分ありますので、ぜひ一緒にそば打ちを楽しみましょう!(そば打ちの会は不定期開催なので、ホームページか、お電話でお問い合わせください。)



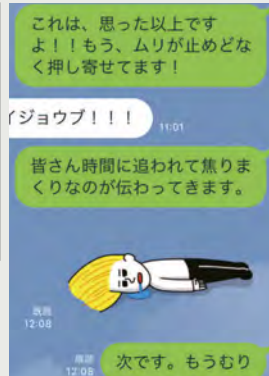
お寺では精進そばにします。

ご寄進の道具を活かすようにと始めたそば打ち。西原口さんに指導を受け始めて早半年。「椎野さんは手慣れてきたね!」というお世辞を真に受け、すっかり天狗になった私はこんなことに挑戦しました:「素人そばうち検定試験 初段」

愛好者が多い蕎麦打ちにも、長く、深い数寄の世界があったのです。その登竜門、素人そば打ち検定試験。四十分でそばを打ちなさいという試験なのですが、この時間が実に絶妙でそば打ちの流れを滞りなく再現できる技術がなければ間に合わない、まさにギリギリに設定されています。

会場は四街道の公民館。臨時駐車場までいっぱいいなことに驚きます。受験者は四十名ほど、十名ずつ四組に分けて進行します(私は三組目)。受

試験前。ビビりすぎ。



西原口さんと。そばの道具、技術とお世話になっています。



五人の試験官に舐めるようにチェックされます。

合格! ャッター(〇´∀`)〇

験者の多くはそば打ちサークルに所属しているのか、お揃いの割烹着で決めている、応援団までいる賑やかさ。孤独感の上に試験前の緊張で怖気づく私。心の準備をしようと前の組を見学すれば、何事もなく上手に打っている人が「五分前!」のコールと同時にアタフタとしだす様を見てしまい、むしろ完全にビビッてしまいました。「もうむり」と隅っこでいじけてると、地獄に仏か、西原口さんが遠方より応援に来てくださいました。(後光をみました)。「試験官に教示するように打つ。」「間に合わなくても丁寧に打つ。」という教訓を賜り、なんとか正気に。何事にも仏が宿るといふのは本当なんだなど、元天狗として心に刻み込みました。:そして、試験。途中のことは緊張のあまり記憶にありませんが、なんとか合格しました!

そば打ちが家庭で楽しむ以外にもこうした目標もあって大勢の方がのめりこむ理由が良くわかります。みなさんもチャレンジしてみては!!

さとやまさいじき 里山歳時記

春の訪れと共に今年も里山に見事な桜が咲きました。さくらの『さ』とは神様のことを指し、神様の宿る『くら』という意味で『さくら』と呼ぶようになったとか。お百姓さんたちは桜の開花時期に合わせて種もみの準備をしたり、桜の咲き方を見てその年の収穫を占っていたそうです。また、五月は田植えをする月であり、稲作民族である日本人は古代からこの月をとっても大事にしてきました。真光寺の田んぼでも新緑が美しいこの時期に田植えが行われます。

田んぼの脇に咲く
ホタルカズラをとて
も気に入られた自然
学校の参加者の方が
一句詠んでください
ました。畦塗りの時
期に咲く深い青色の
素敵な花です。

『ホタルカズラ
棚田のきわの
青く小さな
花を宿して』

田んぼの脇に咲く
ホタルカズラをとて
も気に入られた自然
学校の参加者の方が
一句詠んでください
ました。畦塗りの時
期に咲く深い青色の
素敵な花です。



今年も里に「さ」の神様がやってきました。



田植え後の谷津田に涼風が吹き抜けます。

イベントだより



一畦塗りと田植えー

今年も美味しいお米を作るぞ!ということでは種もみを蒔いて実際に植える稲苗づくりから。田んぼでは水をはるための畦塗り(くろめり)作業を行いました。鍬で泥をすくっては畦に塗りつけます。初夏の陽気で大人は汗だく。子どもたちは田んぼを走り回って泥まみれ。それでもすぐに慣れ、一生懸命苗をちぎっては植え、植えては泥まみれの手をお父さんの服にこすりつけていました。



一花巻き寿司づくりー

房総の郷土料理である花巻き寿司。お寺の檀家さんに教えていただきました。完成形を想定しながら具材を巻き込んでいくというイマジネーションを要求される作業。慣れない手つきで頑張るお父さんの姿がなんとも素敵です。綺麗な絵柄が出ているかはお寿司を切ってみてからの楽しみです。皆さん上手に巻けていました。



一巨木トレッキングー

お寺近くの巨木を巡り、初夏の里山をトレッキングしました。先生は植物を愛してやまない方で、目的の巨木に到達するまでの道路脇に生えている植物までも一つ一つ丁寧に解説されるほど。(歩いて五分の道のりのはずが、三〇分に!) 雄大に佇む巨木から里山に自生する珍しい草花、地名の由来など里山のまた違った一面をたくさんご紹介出来ました。

イベントのご案内

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ・7月1日 (土) イトトンボの観察会 | ・10月21日 (土) サマ仔堀り&キノコの観察会 |
| ・8月2日～3日(水～木) 里山の昆虫探し(宿泊) | ・10月1日 (日) トンボの観察会 |
| ・9月9日 (土) 稲刈り | ・11月12日 (日) 干し柿作り |
| ・9月10日 (日) 稲刈り | ・12月17日 (日) 餅付きとしめ縄お飾りづくり |
| ・9月30日 (土) 栗拾いと里山トレッキング | ※各イベントの詳細は別紙チラシをご覧ください。 |

里山開墾日記

お米作りや自然観察イベントを行う上総自然学校のフィールド。その奥地には耕作放棄され、荒れてしまった田んぼや森がまだまだ広がっています。そのような場所は暗く鬱蒼としてジメジメとしており生き物も多様ではありません。里山とはほど遠い状況になっています。

自然学校では木を切り、草を刈り、水路を作るなど森の整備をすることで、生物多様性のある場所へと開墾する作業も行っています。昨年の冬から開墾を行った谷にも様々な生き物の姿を目にするようになりました。水場に集まる昆虫や動物、それらを獲物とする猛禽類など。伐採し明るくなり水生生物が繁殖した水場には、フクロウのつがいが食事をしに来ています。人が山を綺麗にすることで様々な生き物にとっても住みやすい環境に変化しているようです。

先日は東京農業大学の学生さんが研究も兼ねて整備のお手伝いをしに手弁当で来てくれました。自然学校では定期的開墾作業や整備作業を行っていますので『自分も里山の整備をしてみたい!』というかたのご参加もお待ちしております。整備や開墾の様子も寺報やブログなどで定期的にお知らせしていきたいと思います。



① 開墾前の森（耕作放棄地）の様子。草や木が生い茂り、鬱蒼としている。



② 開墾直後の谷津田。明るくなり新たな芽吹きを促す。



③ 新緑が眩しい開墾後の谷津田。整備作業の手伝いに来てくれた学生さんも気持ちの良さにびっくり。

④ 開墾した水場につがいでやってきたフクロウ。中々見ることの出来ない貴重な場面。

⑤ 狩りをするノスリ。北へ渡っていく時期なのでまたしばらく見られなくなる。



里山の動植物図鑑

フクロウ

里の守り神



留鳥なので自然学校の里山に棲んでいると思われる。田んぼや溜池など餌となる生物が豊富な場所に姿を見せている。時にはつがいで来ることも。夜行性なので普段は滅多に姿を見せることはないが、野鳥観察会などで運が良ければ遭遇することも。里山の守り神的な存在。

マムシグサ(里芋のなかま)

蛇がかまぐびを持ち上げたようなその姿と、強力な毒をもつことから蝮草(マムシグサ)と呼ばれる。全草に毒があり、生で食べた場合は激的な痛みとともに口の中がただれ、酷い場合には壊死することもある。今年、樹木を伐採して明るくなった真光寺境内の林床に数多く見られる。似たものにウラシマソウがある。



キケン
危険!

宗門儀礼について

副住職 國生徹雄

「施食会（せじきえ）」

施食会とは何か？

施食会とは、お釈迦様から伝わるお経を唱えることによって何百億倍にも膨れ上がった食べ物がありとあらゆる精霊に施す法要です。この儀礼は、中国で梁の時代に始まり、「水陸会」という生きとし生けるものへの供養、眼前の人々に分け隔てなく供養するという儀礼の上に、餓鬼・亡者に対する供養、そして自分の先祖に対する供養という、供養対象の変化と重層性を経て現在の形になりました。また施食会は本来時期を問わず行われる儀礼ですが、日本ではお盆の時期に盂蘭盆施食会として行われています。

施食の起源

施食会の由来は『仏説救拔焰口陀羅尼經（ぶつせつくばえんくだらにきょう）』というお経に説かれています。お釈迦様の弟子の阿難尊者が森の中で一人瞑想していると、焰口という口から火を吐く恐ろしい餓鬼が現れ、「お前は三日後に死んで、恐ろしい餓鬼道に落ち、醜い姿になる」と予言しました。驚いた阿難尊者は助かる方法はないかと餓鬼にたずねました。すると餓鬼は「助かりたければ、餓鬼道で苦しむ一切の餓鬼たちに飲食を施し供養しなさい。」と言いました。

しかし、餓鬼の数はとても多く、そのすべてに供養することなど無理なことです。困りはてた阿難尊者は、お釈迦様に教えを乞うことにしました。話を聞いたお釈迦様は「阿難よ恐れることはない。これから教える方法で、餓鬼に施せば、すべての餓鬼たちに飲食を与えることができるであろう。」と説かれました。

阿難尊者はお釈迦様の教えに従い、棚をもうけ、山海の食べ物をお供えし、多くの修行僧に供養してもらいました。その結果、供えた供物は無量のものとなり、阿難尊者は長寿をえて、人々に仏教を伝えることができたといえます。これが施食会の起源となりました。

施食会の意義

施食会は何故行うのかということを考えた時に三つの意義があるのではないかと思います。

それは、①ありとあらゆる精霊への供養と故人様、ご先祖様への追善供養。②自分の命が様々な縁によって生かされていることへの感謝。③貪りの心を抑える修行。以上の三つです。

①ありとあらゆる精霊への供養と故人様、ご先祖様への追善供養。

年回法要は故人様、ご先祖様だけに対しての供養ですが、施食会ではあらゆる精霊に対して供養をします。それによって、供養をする者は多くの功德を得ることが出来ます。そしてその功德を故人様、ご先祖様に回らし向けるのです。直接的に故人様、ご先祖様に供養をするのではなく少し遠回りをすることによって、より多くの精霊に対し

て供養がなされることに意義があるのです。

②自分の命が様々な縁によって生かされていることへの感謝。

お釈迦様は縁起の法を説かれました。それは私たちの存在はすべて縁によってなりたっているということです。家族や身近な人との縁は深く感じやすいのですが、その他の様々な縁、一見関係がないと思われる人やものも私たちにとっては大切な縁であります。そして、それらの縁によって私たちは生かされています。しかしながら、普段私たちはそのことになかなか気づかないものです。施食会では、様々な縁によって生かされているということに感謝し、ありとあらゆる精霊に供養をするのです。

③貪りの心を抑える修行。

施食会は「食べ物を実施す会」と書きます。施すということとは、仏教徒の実徳目である六波羅蜜の布施に他なりません。布施とは、貪りの心を離れる修行なのです。

また、施食会は以前「施餓鬼会」と言われていました。施餓鬼会は「餓鬼に施す会」と書きます。餓鬼とは仏教で説く六道の一つである餓鬼世界に住み、常に飢えと渇きに苦しみ悩まされている、お腹が出て皮と筋と骨ばかりの鬼のことです。

この餓鬼には無財餓鬼、少財餓鬼、多財餓鬼の三種類があります。最初の無財餓鬼は、貪欲に飢えているけれども、いざ食べようとすると炎となり、食べることが出来ない餓鬼です。少財餓鬼は、ごく僅かだけ食べることが許されている餓鬼で

行事予定

縁の会^{せじき}施食法要のご案内

縁の会盆供養を行います。七月盆、八月盆に分け、三座施食法要を修行いたします。
 厳しい暑さの時期ではございますが近在の寺院僧侶をお迎えし、先祖代々のご供養、故人のご供養、
 新盆精霊のご供養、両親縁者など、皆様のご供養を行います。また、今年新盆にあたる精霊には特
 別にご供養をいたしますので縁者の方は特にご参加下さいますようお願い申し上げます。

◇7月7日（金）◇

11時00分 授戒式
 月例供養
 13時00分 施食法要

◇8月11日（金祝）◇

午前の部
 10時30分 受付
 11時00分 法要

◇8月11日（金祝）◇

午後の部
 13時00分 受付
 13時30分 法要

●申込み事項

- ①出席者のお名前、人数、お弁当の数（おひとり1,000円）
- ②出席の日時
- ③お迎えの有無（午前、午後）
 お迎えの時間は裏表紙『送迎案内』をご参照ください。
- ④卒塔婆の有無（1本 2,000円）
 花塔婆の申込みは事前に同封のFAX申込用紙または電話にて
 申込み下さい。
 申込みの際は、故人の戒名または俗名、または〇〇家先祖
 代々、塔婆を建てる方の施主名をお知らせください。

●供養料について

- ⑤施食回向料 随意（3,000円～10,000円程度）
- ⑥新盆施食回向料 随意（30,000円～50,000円程度）

ご自宅での新盆供養または、
 棚経（お盆参り）もお伺いいた
 しますので、ご希望の方はご相談下さい。

ご自宅へ僧侶が伺いご供養を行
 います。希望の日付・時間をお
 知らせ下さい。

仏像彫刻教室

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
 13時30分～16時30分

費用：3,500円 / 1回参加

場所：真光寺（参加者が3名以上で開催）

仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。
 初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に
 応じたペースで、取り組みます。 ※要予約

坐禅会

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日
 15時～16時30分

初心者の方もやさしくご指導いたしますので気
 軽にご参加ください。脚がくめない方は椅子を
 使って参加して頂けます。休憩をはさんで2回坐
 禅をくみます。終了後は、僧侶と一緒に茶話会も
 ございます。

※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致し
 ますので14時30分までにお越し下さい。

精進料理と聖典講読の会

《どなたでも参加できます》

日時：7月25日（火） 11月29日（水）
 9月27日（水） 1月30日（火）
 10月30日（月）

午前11時～午後2時30分

費用：3,000円 昼食付（精進料理）

場所：真光寺

住職による仏教解説の後、一緒に食事をして、
 午後は坐禅または写経を行います。昼食は、精進
 料理や手打ちそばをお出しします。



行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

山門大施食

《檀信徒》

日時：8月9日（水）14時より
恒例の盆施食法要を行います。14時より法話、
15時より法要を行います。

秋彼岸法要

《檀信徒》

日時：9月24日（日）14時より
秋のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予定しております。

紫陽花の会

《どなたでも参加できます》

日時：7月20日（木）	11月15日（水）
9月13日（水）	12月12日（火）
10月19日（木）	

午前11時より午後2時半頃
費用：1,000円 昼食付（精進カレー）
境内や樹木葬墓地の植栽管理にご協力をいただく
会です。花咲く寺を目指しております。是非ご参
加下さい！昼食の精進カレーも大好評です。
※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：11月20日（月）午前11時より午後2時半頃
費用：3,000円（昼食付）
定員：20名

戒名を考えることは、人生を振り返ることです。
午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精
進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際
にご自身の戒名を考えます。考えた戒名は後日の授
戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上
、観音堂にご安置します。

※要予約
※持ち物：漢和辞典

七日法要

《縁の会会員》

日時：7月7日（金）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）
8月11日（金祝）盆施食法要・月例供養 午前の部、午後の部の二座（10ページ参照）
9月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）
10月7日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）
11月3日（金）11時より縁の会総会・月例供養 *詳細は9月下旬頃お手紙でご案内します。
12月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）

※要予約 ※午前、午後の方のみの出席もできます。

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

7月	4日・18日	10月	10日・24日
8月	8日	11月	7日・21日
9月	5日・26日	12月	5日（忘年会）

時間 5月～9月は19時半・10月～4月は19時より
※ご詠歌は、お釈迦さまの教えを讃え、ご先祖さまをう
やまう心をやさしい旋律にのせうたうものです。

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座

《どなたでも参加できます》

日時：12月13日（水）～14日（木）
14時から翌日13時30分解散
費用：8,000円 1泊3食
場所：真光寺

今回は初心者入門基礎講座を初めて開催致します。
日本棋院六段の先生に基礎から教わり、囲碁をはじ
めてみませんか？初心者の方、大歓迎です。

日帰りのご参加
も可能ですので
お問い合わせく
ださい。
※要予約



縁の会秋彼岸法要

日時：9月23日（土）11時より
縁の会合同での秋彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意を致しますので、参列申込み
の際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でもお塔婆のみのご供養もお受け致します
のでお申し付け下さい。
※要予約

みんなで行こう！
真光寺の団参旅行

曹洞宗・正法寺参拝と気仙沼・松島の旅

今回の団参旅行は平泉の名刹めぐりと参拝の旅です。毛越寺・中尊寺は世界遺産。一度は訪れたい場所です。正法寺は第三の本山と呼ばれる曹洞宗のルーツ。日本一の茅葺屋根を見学します。途中気仙沼

にて当山に縁のある寺「清涼院」を訪ね、東日本大震災の七回忌法要を修行します。平泉の絢爛豪華な理想郷からはじまり復興の現在と日本の今昔を縦断する旅。是非ご参加ください。

日程：平成29年10月15日(日)～17日(火)

募集人数：35名(最低催行人数20名)6月現在18名のお申込みをいただいております！

旅行代金：80,000円

※旅館のお部屋は4～6名の男女別のお部屋となります。個別のお部屋をご希望の方は、別途1泊につき10,000円にてご用意致します。(2名様より)

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方(君津発逗子行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方(快速君津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方(木更津発普通千葉行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時51分着
- ・下り電車の方(千葉発普通君津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着
(千葉12時18分発)

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発11時35分→袖ヶ浦BT12時27分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414(代表) TEL 0438-75-7365(縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp(縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp(上総自然学校)